

五戸総合病院での研修を終えて

令和3年10月研修医
大阪市立大学医学部附属病院
初期臨床研修医 鎌田 千聖

大阪市立大学医学部附属病院2年次初期研修医の鎌田千聖と申します。この度は、国民健康保険五戸総合病院で1ヶ月間の外科研修をさせて頂き、誠にありがとうございました。初めてのことばかりで、慣れないことも多く、病院の皆様に助けていただくことばかりでしたが、さまざまな経験をさせて頂きがあり、充実した研修生活を送ることができました。

生まれて初めての東北地方、青森県での1ヶ月の研修への期待はもちろんのこと、それよりも大きな不安を胸に五戸町にやってきました。しかし、1ヶ月を通して、青森の方々の暖かさに触れることが多く、とてもリラックスした環境で研修に臨むことができました。

外科研修では、手術や麻酔、病棟業務、外来での外科処置などを経験させて頂きました。病棟には様々な患者様が入院しておられ、消化器系疾患を主として、誤嚥性肺炎などの内科疾患や、陥入爪や皮下腫瘍等の皮膚科的疾患も広く取り扱っていました。普段研修させて頂いている大学病院が提供するスペシャリストとしての診療とは対照的に、ジェネラリストとして幅広く診療を行っていく様を経験しました。また、たくさんの手技の機会を与えて頂きました。局所麻酔下の手術では、先生方にご指導頂きながら執刀の機会も頂きました。日常業務の中では、胃瘻造設や交換、上下部内視鏡検査の操作など初めてづくしの経験でした。

その他、地域研修ならではの老健施設への訪問診療や、在宅医療、介護保険の主治医意見書記入や死体検案、婦人科がん検診、検診画像の読影など、様々な経験をさせて頂きました。

特別養護老人ホームへの訪問診療では、施設長の方と直接お話をする機会がありました。たとえ年老いても、1人の人としての尊厳、患者様らしさを忘れないといった考えが、施設の内観やのびのびと過ごされている患者様からも実感することができ、深く感銘を受けました。

1ヶ月という短い研修期間ではありましたが、病院が地域の方から愛されており、必要とされているというのを強く感じました。患者様それぞれの生活に寄り添い、希望にできる限りそった治療を目指し、退院後のゴールを見据えての診療は、コメディカルの方々の活躍がいかに大切であるかも実感しました。

1ヶ月を振り返り、青森県での研修を希望してよかったなと心から思っております。如何に自分自身が恵まれた環境で診療を行なっているかを実感しました。大きな病院で働いているからこそ、あまり近くで見ることのなかった、PT・OTさんといったコメディカルの方々の働きを実感できたことや、医療に対する真摯な姿勢を再認識する良い機会となりました。

最後になりますが、このような時勢の中、大阪から来た私を快く受け入れて下さった五戸総合病院の方々に感謝申し上げます。外科研修として日々ご指導いただきました、安藤院長、堂地先生、後村先生及び、産婦人科の井戸川先生をはじめとする先生方、看護師さ

んや技師さん等スタッフの方々には大変お世話になりました。1ヶ月という短い時間ではありましたが、とても充実した研修をさせていただくことができました。この1ヶ月で経験させていただいたたくさんの方のことを忘れることなく、医師として精進していきたいと思
います。本当にありがとうございました。